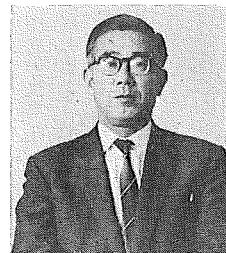


京都生活の雑感

昭和十八年に学窓を出て、満州に渡り、戦後帰国して郷里鹿児島で浪人生活。上京して約半年間の役人生活、その後は財團法人電力中央研究所で、電力技術に関する研究に従事して来た者で、京都生活は約一カ年半である。

洛友会々報に筆を取ることを依頼されたが、これまで寄稿されている方は、先輩でかつ有名人であるところから若輩の私が筆をとることはあるが、明快な答が出て来ない。勘織つてみると、私の経験が前述する事はおこがましい次第である。なぜ私が依頼されるのか自問しても、明快な答が出て来ない。



## 京都生活の雑感

### 上之園親佐

のようないさかか変わっているところにあるのかもしれない。それはそれとして、新参者らしく、ご依頼を丁寧にお受けし筆をとることにした。会員各位のご寛恕の程お願いする。

#### 一、大学の生活について

私は在京中は電気学会、その他研究会、または共同研究の形で、各大学の方々に接觸する機会が比較的多い方であったが、地理的条件、専門分野などの違いから来るものか、京都大学の電気関係の方とは比較的接觸の機会が少なかつた。外部での印象は、京大は理論的であつて静的である。所謂アカデミック的である。それに対して東大はどうらかといふ現実的であり、動的である。この相違の一因は、大学のおかれている立地条件によるものであろう。東京には多数の研究会があつて、常に当面し

# 洛友会報

京都市左京区吉田本町  
京都大学工学部  
電気工学科教室内  
洛友会

た問題を捉えて研究活動が行なわれているが、膝元である東大はこれら研究活動に首を突っ込まざるを得ないところから現実的かつ動的であるのかもしれない。

新幹線が出来て、京都—東京間の所要時間は約3時間と短縮されだが、京都から東京の研究会など頻繁に出席することは時間的にも経済的にも容易ではない。

私の専門である電力技術は総合技術の体形まで成長してきたことが、大学の研究から次第に遠ざかるようになつたのではないと思ふ。このことは、研究課題がないことではなく、適當な課題が選定しえないことにあるよう思ふ。一例であるが、電力系統の拡大による系統の信頼度の研究とか絶縁設計の基礎である閃終現象の理論的研究は極めて重要である。

かかる基礎的、理論的研究には京大の研究雰囲気は適しているようである。

幸いにして、二十数年、私は電力技術の研究開発に携わってきたので、大学で相応した研究テーマを取り上げているが、今日のことから未だ紙と鉛筆に依存し、鉛器をやたらと痛めつけている次第である。

私が在学していた当時は確か6講座であったが、現在は、電気工学教室、電子工学教室、電気工学第二教室で講座数19（会報五六号、教室だよりをご参照、本年より電気工学教室に計測制御の講座が設けられた）となり、学問の進歩の著しさを示している。かよう

い。近頃、周囲のご同情を得て、僅かばかり実験設備が整備しつつあるので、そのうちに成績を出せることは思っているが、仲々

思うように行かぬものである。

ス時代、学生諸君は電力部門、電気機器部門には余り関心がない。これも時代の流れで、やむを得ないと思うが、淋しい感じである。

また、一面これでよいのかと考えさせられる。聞くところによると米国の大学では、電力関係の講義がないとか、欧洲においても電力関係に興味をもつ学生が少いよう

で、学生が所謂強電関係に興味を示さないのは世界的傾向のよう

である。したがって、優秀な学生が強電関係に就職して行かないとか、また就職者がなくなることは、わが国産業界としてもゆき問題となる。米国では、電力会社への就職者がいないとか、また、G E社の強電関係には若手の有能な技術者が少いということであるが、まだ就職者がなくなる状態に違からず、わが国もかかる状態にみまわれるであろう。電力関係の教育を担当している私として、このことを十分に念頭において学生の教育に当たりたいと思ってゐる。わが国としては、米国などが前述した状態下にあれば、この機会に電力技術の向上をはかり、この技術の輸出をもたらす努力が必要である。

であると痛感する次第で、このた

めの教育について先輩各位のご指

導とご鞭撻をお願い申上げる。

本年度は就職のお世話を担当し

ているので、学生に直接接する機

会が多い。大体において学生諸君はおとなしい、女性的な感じを受けることがある。東京にいた時、京大の学生はおとなしすぎるとか

消極的であるとか、引っ込み思案であるとか聞いていた。そこで、私は出来るだけ友人の気持ちで接し、少しでも引っ込み思案のところがなくなるように努力している。性格から来るのか、研究が最高のものと思っているためか、就職の希望を研究と実務に大別すると、殆どどの学生が研究をしていてる。性格から来るのか、研究が最高のものと思っているためか、就職の希望を研究と実務に大別すると、殆どどの学生が研究を希望する。実務につくことを嫌う傾向がある、このことは、現代の学生の一般的傾向であるのか、京大の特性であるのか、新前の教師としていろいろ考へさせられるところである。

私が在学していた当時は確か6講座であったが、現在は、電気工学教室、電子工学教室、電気工学第二教室で講座数19（会報五六号、教室だよりをご参照、本年より電気工学教室に計測制御の講座が設けられた）となり、学問の進歩の著しさを示している。かよう

であると痛感する次第で、このための教育について先輩各位のご指導とご鞭撻をお願い申上げる。

本年度は就職のお世話を担当しているので、学生に直接接する機会が多い。大体において学生諸君はおとなしい、女性的な感じを受けることがある。東京にいた時、京大の学生はおとなしすぎるとか消極的であるとか、引っ込み思案であるとか聞いていた。そこで、私は出来るだけ友人の気持ちで接し、少しでも引っ込み思案のところがなくなるように努力している。性格から来るのか、研究が最高のものと思っているためか、就職の希望を研究と実務に大別すると、殆どどの学生が研究をしていてる。性格から来るのか、研究が最高のものと思っているためか、就職の希望を研究と実務に大別すると、殆どどの学生が研究を希望する。実務につくことを嫌う傾向がある、このことは、現代の学生の一般的傾向であるのか、京大の特性であるのか、新前の教師としていろいろ考へさせられるところである。

私が在学していた当時は確か6講座であったが、現在は、電気工学教室、電子工学教室、電気工学第二教室で講座数19（会報五六号、教室だよりをご参照、本年より電気工学教室に計測制御の講座が設けられた）となり、学問の進歩の著しさを示している。かよう

昭和43年7月10日

## 洛友会報

に教室が拡大されることは結構なことであるが、他方には問題が派生しているようと思う。すなわち今日では、建物が敷地を占領し運動する場所がないことで、将来は如何に対処するか種々考究しておくことが必要である。また、講座数の増加は、人口の増加となるので、教室の運用を従来の合議的運用（この言葉が妥当でないかも知れない）に組織的運用を一部には適用することが必要のようである。

私にとっては大学の生活ははじめてのことであり、気付いたことを二三述べさせていただいた。大学の生活の良さは、確かに勉学の自由にあるよう、その点では別世界の感がないでもないが、勉学の自由は大事にしておく必要がある。だが、一方、大学も社会の構成要素であるからその点においては独創的ではならないと思う。特に、企業における科学技術の進歩の著しい今日では、なおりう。

## 二、京都の街と気質について

大都市は過密化のため変貌しつつあるのに、京都の街は昔の姿をとどめている、在学時代と変わっているのは、車の多いこと、郊外に住宅が増えたことなどであろうが静寂を保っているのが京都である。これは、京都が近代都市として発

展するための要素に欠けていないともいえる。その要素の一つは發展の原動力となる経済力の貧困にある。すなわち、阪神の経済圏の片隅に位置し、新幹線が出来てからは東西の経済圏から取り残されたともいえる。したがって、京都の街は早急に変貌することはあるまい。

この静寂さは学究の徒には幸いしている一面ではあるが、刺戟を失って世の大勢から取り残されるような面もある。換言すると、京都の地は思索には適するが、時代の流れから遠ざかる可能性も有しているように思う。私のように東京で二十数年暮した者にとっては、日々の繁忙と騒々しさから開放されて、ホットしている面もある。

この静寂さは保守的な面を残しているようにも思う、生活態度は

## 三、京都の食べ物について

質素で、礼儀正しく、のんびりしているようである。一方選挙とか思想の面では革新的である。この革新は急速に成長してきたわが国の経済力に対する一種の抵抗ともみられる。私はこれは世の変貌に対する順応性のない者の変貌に対する批判はするが実行はない、特にこの傾向は智識層に多いようにみられる。私はこれは世の変貌に対する順応性のない者の変貌に対する抵抗のようにも受けとれる。

京都はご承知のように優雅な平

安朝文化を築き、その文化を貴族が温存し、明治維新まで天子様の都おわす都として、国民の憧れの都でもあった、それだけに、世の権力者は京都を支配することを念願としたため、京都は政変にさらされた。その結果、京都人は時の支配者に従順であるかのような態度をとりつつ、一方では常に自己保身をはかったともみられる。私がかようなことを述べたのは、京都人の生活態度は物腰柔らかく丁寧であるが、一方には芯の通ったところが見受けられるからである。長年月に亘り培われた京都人の気質はそう簡単には変わらないと思うが現代の思想の流れは保守的な京都に推し寄せていているので、現代の若者がやがては京都人の気質を変えることであろう、しかし、今日では京都人の気質は保守的のようを受けとられる。

## 昭和四十三年度 洛友会総会

五月十八日(土)午後三時半東

京目黒の国際観光「八芳園」にお

いて、東京支部総会を兼ねて出席

者約一一〇名の盛会裡に開催され

た。

幹事近藤文治教授の司会で先ず顧問野田清一郎氏のご逝去に対し、

一分間の哀悼の黙禱を捧げ、鳥養

会長の挨拶後、議事にうつり、

◆第一号議案

役員任期満了改選については、

金役員留任が満場一致で可決さ

れた。

◆第二号議案

副会長増員について、会則、第

六条、副会長若干名の次に「内

一名は電気系教室の最年長教授

をもってこれに当てる」を付記

する。

満場拍手裏に承認され、前田憲

教授(昭七)が新しく副会長

をもってこれに当てる」を付記

する。

万場異議無く承認可決された。

◆第三号議案

会則第十二条会費値上げについ

て、値上げの理由に就いて、山

本幹事より説明があり、名簿編

集費の高騰と、支部活動を盛ん

にするため、次の如く提案した

本部会費七百円

京都に住みついて、おいしいと

いささか固苦しいことを述べ

きたので、ここでは柔い話にした

い。京都は大体食べ物は不味いと

いうのは一般的のようである。最

近は、日本国内の土産物が特色を

なくしたと同じように、京都の食

べ物屋の味も私の学生時代よりは

向上しているようと思う。

京都に住みついて、おいしいと

思つては、和菓子である。種類も

多くかつ安い。東京の和菓子はし

た。

○八芳園の新緑滴る名園の中の大

広間で洋食、すし、天ぷら、焼

っこい甘さがあるが、京都のものには、そのしつこがないあっさりした甘さである。

京都の土産物でよく知られているのは八つ橋であるが、おいしい和菓子があるのを知らない人が多いのではないかろうか、これは私だけの考え方で失礼を申し上げたことになるが、ぜひ京都にお出の折は

京都に住みついて、知ったこと、依頼の責任を果すこととする。誤っている点、不勉強の点よろしくご教導の程をお願いして筆をおく

鳥等に舌鼓を鳴らしつつお互いに健康を祝しながら、歓談に時をすごした。  
宴だけなわにして、桜井長一郎氏の漫談および青木メタル社長の奇術が一段の興をそえた。  
○本総会には、大先輩の宝来、大森、鳥養、宮崎、吉田、長島氏を始め、遠方の支部より真田安夫氏（中国支部長）金井久兵衛氏（昭五、北陸支部）等の方々がはるばる上京され家族で同伴の方々も入り混り、誠になごやかなすばらしい夕の一時で。午後七時過ぎに散会した。



## 昭和42年度収支決算書

収入の部		決算額	予算額
会電気講習所	費会費	1,082,700	1,100,000
預金利子	128,500	170,000	
雜収入	229,493	250,000	
前年度繰越金	390,610	700,000	
合計	3,876,722	3,876,722	
合計		5,708,025	6,096,722

## 支出の部

支出の部		決算額	予算額
刊行物	費	1,487,220	1,252,000
名簿	編集費	9,720	15,000
同同	印刷費	1,019,600	650,000
会報	発送費	208,380	250,000
同同	刷印費	1,450	7,000
会報	編印費	135,000	200,000
同同	刷送費	113,070	130,000
諸	費	755,096	730,000
備通会	品信合会費	9,601	15,000
總集	費	24,050	20,000
總旅	費	39,598	5,000
臨時	費	223,642	150,000
旅費	費	68,775	90,000
旅費	費	163,060	200,000
旅費	費	226,370	250,000
旅費	費	60,000	70,000
旅費	費	60,000	70,000
旅費	助計	2,302,316	2,052,000
次年度繰越金		3,405,709	4,044,722
合計		5,708,025	6,096,722

## 預金および現金（昭和43年3月31日現在）

信託預金	3,147,171円	三菱住友各信託銀行京都支店
普通預金	101,076円	住友銀行京都支店第一銀行百万遍支店
当座預金	2,941円	第一銀行百万遍支店
郵便振替現金	85,627円	京都地方貯金局
現金	68,894円	
合計	3,405,709円	

昭8	昭7	昭6	昭5	昭4	昭3	昭2	大15	大14	大13	大9	大8	大7	大6	大5	大4	明41	
安三	小野恒造、久保久雄、西山	憲一、松井登兵、吉岡俊男	幸雄、福間正、藤田真一	古田久一、山本茂雄、柳父	石垣悌次、上西亮二、野際	均、難波捷吾、林重憲、平出鏡一、交川有	大島文平、真田安夫、塙津三郎	浜崎諒	安達	遂、伊達	達、同伴	良知	沢山義一	堀岡正家、小沢仙吉	高見祥平	間崎竜夫	宝来勇四郎、鳥養利三郎、古田正康、宮崎駒吉、真崎尚忠、同伴2名
	浅井光枝、富満通哉、前田		幸雄、福間正、藤田真一														伊沢辰雄、大塚徳雄、大西冬藏、奥平
																	大元

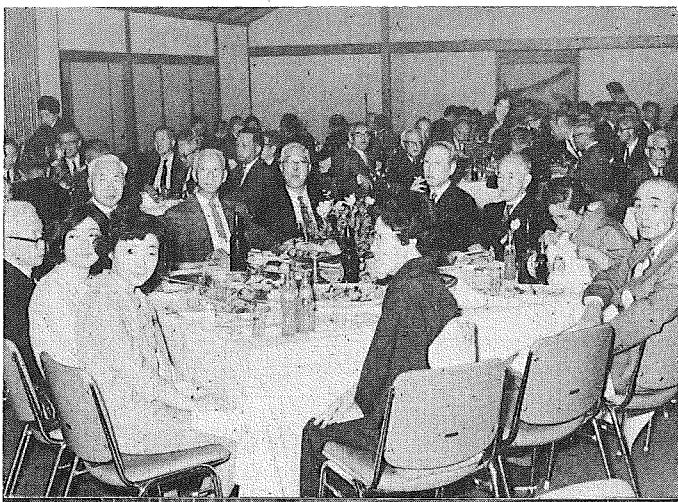
## 昭和43年度収支予算書

収入の部		予算額	前年度決算額
会電気講習所	費会費	1,500,000	1,082,700
預金利子	185,000	128,500	
雜収入	200,000	229,493	
前年度繰越金	980,000	390,610	
合計	3,405,709	3,876,722	
合計		6,270,709	5,708,025

## 支出の部

支出の部		予算額	前年度決算額
刊行物	費	1,422,000	1,487,220
名簿	編集費	15,000	9,720
同同	印刷費	800,000	1,019,600
会報	発送費	250,000	208,380
同同	刷印費	7,000	1,450
会報	編印費	180,000	135,000
同同	刷送費	170,000	113,070
諸	費	950,000	755,096
備通会	品信合会費	20,000	9,601
總集	費	50,000	24,050
總旅	費	50,000	39,598
臨時	費	150,000	223,642
旅費	費	130,000	68,775
旅費	費	300,000	163,060
旅費	費	250,000	226,370
旅費	助計	70,000	60,000
旅費	助計	70,000	60,000
支	合計	2,442,000	2,302,316
次年度繰越金		3,828,709	3,405,709
合計		6,270,709	5,708,025

## 出席者



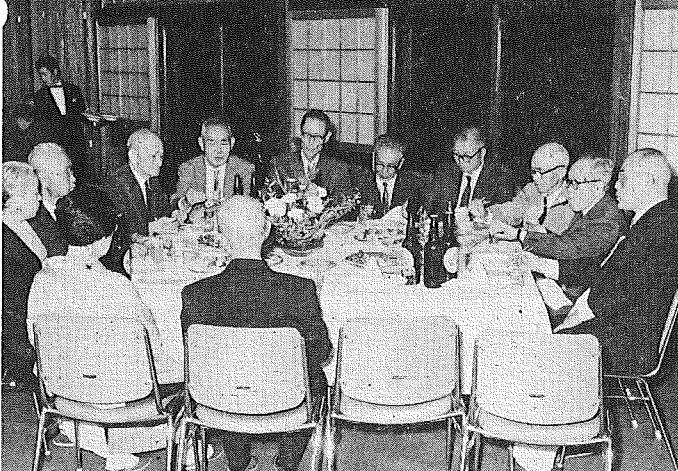
昭 9	石川弘文、北村芳雄
昭 11	古池弘正
昭 12	石崎達弥、平田 穣、正木
昭 13	知巳
松尾三郎	
昭 14	筑木二郎、義井龍景
昭 15	相木一男、山村竜男
昭 16	高橋碩男、同伴 <sup>1</sup> 名
昭 18	近藤文治
昭 19	木村小一
昭 22	中島達二
昭 23	服部周三
上村隆俊、大沢謙一、多田	
昭 29	

昭和43年度

卒業生と就職先

電気工学科  
大学院修了者（博士）五名  
大鷗 健司 京都大学助手  
倉光 正己 京都大学助手

田畑 孝一 京都大学助手  
仁田 昌三 岐阜大学講師  
松本 修文 大阪大学理学部  
生物学教室



竜、間瀬光朗、松村和田  
森 幹夫、山本茂樹  
荒木 裕  
伊藤貞男  
山田庄一、同伴2名  
宇野喜博

講昭	12	昭43	昭43	昭39
講大	7	志賀	森田浩三	篠原進
中野	一	正	内藤勲	福田善二
壯三		山本	武	

藤村	勇次	日本電々公社
松下	正樹	住友金属工業
吉田	史哉	日立製作所
阿部	保之	大学院
伊藤	操	中部電力
井上	昭浩	大学院
加藤	博光	大学院
顧化	敏彦	四国電力
木村	弘正	富士通
隈元	昭	大学院
佐々木	拓二	日本国有鉄道
志賀	正	日本電々公社
白井	雄次	昭和電線電纜
鈴木	博之	倉敷レイヨン
高木	健起	中国電力
高須		日本電池
啓次		

四二名

藤田	中村	塙崎	忠	京都大学助手
増井	森	的場	靖夫	博士課程
森川	松本	松本	茂夫	東京芝浦電気
安野	の	の	久之	三菱電機
山添	保光	の	翼	関西電力
吉田	儀剛	の	徹	博士課程
達明	博司	の	清勇	大阪府立大学助手
渡辺	松下電器産業	の	防衛厅	
恒雄	松下電器産業	の		
電力中央研究所	日本電々公社	の		
天野	日立電線	の		
隆喜	の			
小河	飯田	の		
岡崎	出沖	の		
岡里	井沢	の		
岡本	井上	の		
甲斐	邦彦	の		
垣花	高志	の		
開高	富士通	の		
河野	文明	の		
川原	京都大学文学部	の		
神藤	岡	の		
木谷	岡	の		
櫻木	岡	の		
国信	岡	の		
栗山	岡	の		
小橋	岡	の		
佐藤	岡	の		
竹美	岡	の		
俊介	洋	の		
茂郎	洋	の		
大學院	洋	の		
大學院	洋	の		
大學院	洋	の		
日本電氣	洋	の		
京都大學研究生	洋	の		

篠尾	博之	大学院
島田	勝弘	帝人
関	祥行	フジテレビジョン
田中	宏毅	大学院
田原伊和男	カシオ計算機	
田村	佳彦	大学院
稻谷	琢一	日本電気
友野	達之	村田製作所
中野	貞彦	大学院
南部修太郎	大学院	
林	孝臣	東京三洋電機
樋口	輝雄	川崎製鉄
東	和彦	三菱電機
広川	正	東京芝浦電気
堀江	雄太郎	大学院
堀江	俊輔	大学院
三木	元	京都大学研究生
宮武	貞夫	大学院
盛岡	俊彦	日本アビオトロニクス
吉村	正久	朝日放送
渡辺	脩二	沖電気工業
電子工学科		
大学院修了者（博士） 四		
栗井	郁夫	京都大学助手
岩見	基弘	大阪大学助手
古浜	洋治	郵政省電波研究所
吉田	裕	日本電々公社
大林	勇雄	東京芝浦電気
岡田	治正	八幡製鉄
河野	光彦	博士課程
島崎	眞久	通産省電氣試驗所
眞昭	博士課程	

## 会費納入についての お願い

岡村	金蔵	(明39)	41年11月10日
吉田喜久次			
清山正人	(講大8)	42年10月	
藤原計一	(講大12)	42年12月10日	
飯田 一郎	(大6)	43年1月8日	
清水富士雄	(昭6)	43年4月6日	
野田清一郎	(明41)	43年5月	
中島 阜爾	(明39)	43年6月	
堀内 正豊	(大12)		

名簿編集にご協力を！

○先般会員の各勤務先ごとの異動の調査の際会費未納の方々に注意して頂くようお願い致し各位のご協力を得ましたことを紙上をもって厚くお礼申し上げます。今後とも会費納入率の向上についてご協力を賜わりますようお願いいたします。

○名簿編集用の葉書が挿んでありますから、住所の変更のない方々も全員該当欄にご記入の上ご返送下さいますようお願いします。

本年の総会において会費値上げの案が承認されました。即ち本年より  
支部会費五百円（従来五百円）  
計 千二百円（従来七百円）  
と改められました。値上げの理由

に教室が拡大されることは結構なことであるが、他方には問題が派生しているように思つ。すなわち今日では、建物が敷地を占領し運動する場所がないことで、将来は如何に対処するか種々考究しておこことが必要であろう。また、講座数の増加は、人口の増加となるので、教室の運用を従来の合議的運用（この言葉が妥当でないかも知れない）に組織的運用を一部には適用することが必要のようである。

私にとっては大学の生活ははじめてのことであり、気付いたことを二三述べさせていただいた。大學の生活の良さは、確かに勉学の自由にあるようで、その点では別世界の感がないでもないが、勉学の自由は大事にしておく必要がある。だが、一方、大學も社会の構成要素であるからその点においては独善的であつてはならないと思う。特に、企業における科学技術の進歩の著しい今日では、なお一層のことと思う。

## 二、京都の街と氣質について

大都市は過密化のため変貌しつつあるのに、京都の街は昔の姿をとどめている、在学時代と変わっているのは、車の多いこと、郊外に住宅が増えたことなどであるが静寂を保つてゐるのが京都である。これは、京都が近代都市として発展

展するための要素に欠けているともいえる。その要素の一つは発展の原動力となる経済力の貧困にある。すなわち、阪神の経済圏の片隅に位置し、新幹線が出来てから東西の経済圏から取り残されたともいえる。したがつて、京都の街は早急に変貌することはあるまい。

この静寂さは学究の徒には幸いしている一面ではあるが、刺戟を失つて世の大勢から取り残されることはある面もあるう。換言すると、京都の地は思索には適するが、時代の流れから遠ざかる可能性も有しているように思う。私のように東京で二十数年暮した者にとっては、日々の繁忙と騒々しさから開放されて、ホットしている面もある。

この静寂さは保守的な面を残しているようにも思う、生活態度は質素で、礼儀正しく、のんびりしているようである。一方選挙とか思想の面では革新的である。この革新は急速に成長してきたわが国のみられる。一方、施策などに対する批判はするが実行はない、特にこの傾向は智識層に多いようにみられる。私はこれは世の変貌に対する順応性のない者の変貌に対する抵抗のようにも受けとれる。

京都はご承知のように優雅な平

安朝文化を築き、その文化を貴族が温存し、明治維新まで天子様の都おわす都として、国民の憧れの都であった、それだけに、世の権力者は京都を支配することを念願としたため、京都は政變にさらされた。その結果、京都人は時の支配者に従順であるかのような態度をとりつつ、一方では常に自己保護身をはかったともみられる。私が

かようなことを述べたのは、京都人の生活態度は物腰柔らかく丁寧であるが、一方には古の通ったところが見受けられるからである。長年月に亘り培われた京都人の気質はそう簡単には変わらないと思うが現代の思想の流れは保守的な京都に推し寄せていて、現代の若者がやがては京都人の気質を変えることであろう、しかし、今日では京都人の氣質は保守的のよう受けとられる。

三、京都の食べ物について

いささか固苦しいことを述べてきたので、ここでは柔い話にしたい。京都は大体食べ物は不味いといふのは一般的のようである。最近は、日本国内の土産物が特色をなくしたと同じように、京都の食べ物屋の味も私の学生時代よりは向上しているように思う。

京都に住みついて、おいしいと思ふのは、和菓子である。種類も多くかつ安い。東京の和菓子はし

っこい甘さがあるが、京都のものは温存し、明治維新まで天子様の都におすすめしておきたい、きっとりした甘さである。

京都の土産物でよく知られているのは八つ橋であるが、おいしい和菓子があるのを知らない人が多いのではないか。これは私がだけの考え方で失礼を申し上げたことになるが、ぜひ京都にお出の折は

奥様やお子様のお土産物に和菓子をおすすめしておきたい、きっとりとめもないことを書いた、京都に住みついて、知ったこと、依頼の責任を果すこととする。誤っている点、不勉強の点よろしくご教導の程をお願いして筆をおく

## 昭和四十三年度 洛友会総会

五月十八日(土)午後三時半東

京目黒の国際観光「八芳園」にお

いて、東京文部省総会を兼ねて出席者約一一〇名の盛会裡に開催された。

幹事近藤文治教授の司会で先ず顧問野田清一郎氏のご逝去に対し、一分間の哀悼の黙禱を捧げ、鳥養

会長の挨拶後、議事にうつり、

◆第一号議案  
役員任期満了改選については、全役員留任が満場一致で可決された。

◆第二号議案  
副会長増員について、会則、第

六条、副会長若干名の次に「内

一名は電気系教室の最年長教授

をもってこれに當てる」を付記する。

満場拍手裏に承認され、前田憲

一教授(昭七)が新しく副会長

に就任された。

◆第三号議案

会則第十二条会費値上げについて、値上げの理由に就いて、山本幹事より説明があり、名簿編集費の高騰と、支部活動を盛んにするため、次の如く提案した

本部会費七百円

支部会費五百円

万場異議無く承認可決された。

○次に昭和四十二年度事業報告並びに収支決算報告が山本幹事よりまた会計監査報告が上西幹事により説明され満場拍手裏に承認可決された。

○次いで教室の現状について、前田憲一教授より報告があり、議事を終わり、懇親の宴会に移つた。

○八芳園の新緑滴る名園の中の大広間に洋食、すし、天ぷら、焼